

# パーソネル・クローズアップ

メンバーに直接インタビューを行い、素顔を紹介します  
最終更新日 (2000. 4. 29)

## ●山木 幸三郎さん (G&作・編曲)

今号よりスタートしたパーソネル・クローズアップではメンバーの素顔を紹介  
します。第1回目は、ニューハード最古参のメンバーで、ギタリストで作・編  
曲家の山木幸三郎さんにご登場いただきます。

1998年3月7日(土)13:00、東京駅八重洲中央口で山木さんと落合い、  
近くの喫茶店で、2時間近くに渡り取材させていただきました。快く取材に応  
じていただき、山木さんの心の暖かさに触れたようで嬉しくなりました。ジャ  
イブエーセス時代から、宮間さんと共に50年近く歩んでこられただけに、2  
時間だけの取材ではごく一部のお話しか伺えず、今後も引き続き取材をしたい  
と考えています。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

まず最初にプロフィールを簡単に紹介しましょう。

- 1931年(昭6)4月18日、東京で生まれる。千葉県市川工高卒業。
- 1951年(昭26)コンボ結成。1956年(昭31)1月16日高見弘入団、グループ7の山木を推薦
- 1953年(昭28)ニューハードの前身、宮間利之率いるジャイブエーセス  
にギタリストとして入団。作曲・編曲家としても今日までニューハードに数多  
くの独創性豊かな作品を提供し続け、高く評価されている。特に日本の伝統的  
な音階とモダンジャズを豊かな感性でもって見事に融合させた「振り袖」や「土  
の音」などは、モンタレーJFやニューポートJFなど、海外でも大絶賛を浴  
びた。

○ 1986年(昭61) ギャラリーヤマキで「音を見る展」出品。1976年頃  
からスコアを書くペンでもって何気なくスコア用紙に書き始めた点描画(小  
さな点の構成によって描く)。最初は小作品中心で友人にあげていたのが、画  
廊を経営する弟さんのアドバイスで絵画サイズの作品を手がけ、その集大成と  
して開催。その後も数回、地方を含めて個展を開催。なかでもミュージシャン  
を描いた作品は素晴らしい。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

(日) 音楽、ジャズとの出会いは?

初めてジャズを聴いたのは、戦後進駐軍向けの放送で、それまで軍歌とか民

謡しか聴いていなかったのだから「これは、ナンジャ」と不思議な感じでした。

そして戦後のゴタゴタの時に、富山から東京に出てきて、千葉方面からお米のカツギ屋をして、江戸川区にある寿司屋に買ってもらって生計を立てていました。結局その女将さんがカツギ屋をやめてうちで働いて板前にでもなるかと言ってくれて丁稚奉公に入ったんです。

そこのご主人は昔三味線を弾いて、遊郭なんかで流しをしていた有名な人で、その息子さんも音楽好きで、家にあるピアノ、ギター、アコーディオンなどの楽器をいじっていたんです。それでいつ行っても彼が同じ曲を聴いているので、何をやってるんだと聞くと、楽譜に表しているんだと言うのです。当時ジャズの楽譜なんかないものだから、レコードからコピーしていたんですね。

当時は音楽に興味はなかったんですが、毎日行っていたら、自然と曲を覚えてしまっ、イントロ、テーマそしてアドリブまで全部覚え、鼻歌で歌えるようになったんです。そしたら彼が、驚いて「お前ちょっと待て、もう一度歌ってみろ」と言うので、覚えたグレンミラーの曲とかを歌ったんです。そしたら今度は譜面の書き方を教えてくれて、僕もコピーに興味を持ったんです。楽器も使わず、キーもわからないまま耳で聴いたものを譜面にしていました。このことが音楽に興味を持ったきっかけですね。

そして初めて楽器を持ったのがスチールギターなんです。派手なのが好きだったんで自分で作ったんです。最初はハワイアンとかウエスタンをやっていたんです。そのうちハワイアンも皆曲が同じで単純だし、だんだん飽きてきて、それでジャズを聴いているうちにやりたくなったんです。それが高校ぐらいです。

(月) ジャズの勉強はどのように？

誰も教えてくれる人がいなかったのだから、有楽町の駅前に出来た「コンボ」というジャズ喫茶などへ行って聴いたり、またブイデスクという大盤の米軍兵用の慰安レコードの中からジャズ盤を兵隊などから借りてコピーしました。あと、よくニュース映画館に通ってコピーしました。当時、毎日新聞ニュースとか朝日新聞ニュースとかいったニュースばかりを上映しているニュース映画館がたくさんありました。だいたいニュース1回が1時間くらいで終わるのですが、その合間に15分程度のタップダンスの映画、漫画、ジャズバンドの映画などの短編が上映されるのです。それで、今週どここの映画館ではデューク・エリントンをやっているとか、ベニー・グッドマンをやっているとか聞くと、その日は朝から映画館に行って、その時間になると皆自分たちでコピーして、また1時間ニュースを見て、またその時間が来るとコピーをしていました。当時レコードなんて給料の1ヶ月分で手に入らなかったし、プレーヤーを買うといってもなかったので、今では信じられないことですよ。

それと、進駐軍のキャンプでは兵役にとられ日本に来たアメリカのミュージシャンたちとのジャムセッションで教えてもらったりもしました。

(火) プロ活動はいつの頃？

17歳の頃ですね。何だかんだして気がつくと、寿司屋の息子と一緒に進駐軍のキャンプ回りのバンドボーヤをやっていて、そこでギターやいろいろなことを勉強しました。そして、どこかのバンドでギターを探していると聴けば使ってもらえますかと言ってオーディションを受けてバンドを回りました。

その後、自分の好きなものをやれるメンバーを集めてバンドを作りました。僕と、高見弘（アルト）、稲垣次郎（テナー）、金井英人（ベース）、山崎唯（ピアノ）などで、ビ・バップ等をしていました。特にジョンソン空軍基地のEMクラブには、一等兵や二等兵が多くて、金曜日とか土曜日のショータイムの時に、テーブルの上に乗ってエキサイティングにサックスブローなんかをやるもんだから、結構受けましたね。

それから、榎島靖起さん（ドラムス）のバンドに引っ張られて、そこで北村英治（クラリネット）、モンティー本多（ベース：本多俊夫）、高校の時の英語と数学の恩師であったバインの津田さんたちとやったりとコンボでの活動をした後に、高見君とほぼ同じ時期に、宮間さんのジャイブエーセスに入団しました。

(水) 影響を受けたミュージシャンは？

モダンジャズの魅力のとりこになったのは、レコードが聴けるようになってからのことですが、チャーリー・パーカー、クリフォード・ブラウン、ソニー・クラーク、セロニアス・モンク、ジャズ・メッセンジャーズ、ジョン・ルイス、オーネット・コールマン、チャーリー・ミンガスなどの影響を強く受けました。そして、いそのテルヲさんが聴けと言って聴いたのが、ディジー・ガレスピーのビッグバンドでした。今までにない強い感銘を受け、一番刺激となって、それまではコンボばかりでやっていたのですが、1953年にジャイブエーセスに入りました。今でもそのレコード「HR-134EV、ニューヨーク、1946年録音」を聴くと、その時の感動・ショックが蘇ります。

(木) アレンジャーとしての活動はいつ頃から？

コンボ時代でもヘッドアレンジはやっていましたが、ビッグバンドのアレンジはジャイブエーセスに入ってからです。その頃に進駐軍から回って来る楽譜はほとんどダンス用だったので、自分達やりたいモダンジャズの楽譜は自分達で作るしかなかったんです。それで、高見君と僕とでレコードなどからコピーしながらアレンジをするようになったんです。

アレンジは書き出したら1曲3～4時間くらいで仕上げます。書き出すまでどうやるのかを考えているうちは長かったり、短かったりですが、だいたい頭

の中で、イントロはどうやって、次はどうやって、こう終わろうかとまとまったら、あとは一気に書き出します。

各ホーンセクションのリード奏者はだいたいメロディーを吹きますから、あとの奏者がハーモニーになっていて全部違うんです。ですからいかにリード奏者に合わせて演奏するかによってサウンドが変わってきます。同じアレンジの譜面でも、リード奏者が変わっても、サイドが変わっても、またドラマーが変わっても雰囲気が変わってきて、そこがジャズの面白いところです。要するに、江戸弁で歌う者もいれば大阪弁で歌う者もいるということです。

(金) 1974年の初海外遠征、モンタレーJF出演の思い出は？

あの時の感動は一生忘れられませんよ。1回目のステージはニューハードだけで、2回目はラテン・ナイトということで、ディジー・ガレスビー、カル・ジェイダー、モンゴ・サンタマリアそしてニューハードでラテンの曲をやったんです。それでマンティカをやった時に、ガレスビーが楽器を下に置けと言うんです。するとガレスビーは僕をステージの前に連れ出し、二人で踊ったんです。先ほど言ったようにガレスビーのレコードを聴いて強い感銘を受け、神様と共演できると共演できて、もうあがっていたんでしょうね。全然覚えてなくて、あとで写真を見てわかったんです。

(出) 山木さんにとってニューハードとは？

僕にとっては、ニューハードはすべてですよ。青春から今日までもうニューハードですよ。そして宮間さんはビッグバンド界の巨人だと思っています。

(際) 現在のレギュラー・ビッグバンド界について？

経済的な理由等で、メンバーも複数のビッグバンドを掛け持ちするようになり、リハーサルバンド化していることは事実ですが、やはりメンバー一人ひとりがニューハードのメンバーであるといったプライドを持ってほしいと思います。ぱっと音を聴いた時に、ニューハードの音だとわかるくらいにね。

(裾) プロを目指す学生に対して一言

これからの時代は国際的な感覚を身に付けないとだめだと思います。今の日本のマーケットでは仕事は厳しいですから、言葉も英語くらいは話せるようになってほしいですね。それと音楽、ジャズだけでなく、人間として幅広く見聞を深め、いろいろなことを吸収してほしいものです。それは特にアドリブにも出てきます。いいアドリブを演奏しようとするなら必要なことです。

もちろんテクニックはあるに越したことはありませんが、それはあくまでも技術であって、それをいかに応用して音楽として表現できるかが重要なことです。